

# 備陽史探訪

NO.16

## 講演

「歴史における民衆の役割」要旨

七森義人

この講演は十月五日(土)、神辺町隣保館において、東京経済大学教授、色川大吉氏により行なわれた。その内容の要分かでも会員諸氏に伝えるべく、拙いながら私がその要約を勤める事となった。元より私の筆力では講演の内容を、半分もお伝えする事はできない。幸い当会で録音もさせて戴いたので、お聞きになりたい方は、当会会員山口哲晶氏まで御連絡下さい。(市内引野町二三八・四九、2049)

現在民衆史は、歴史の一分野として認められていく。しかし1960年代より以前には、歴史は偉人・英雄が動かすものであり、民衆は主体性も、

人格も持たない存在ゆえに歴史を動かす力は持たないとされて来た。しかし民衆にそれは可能なのである。近世以後の事例でも、明治新政府に対する一揆、秩父困民党、足尾銅毒への抵抗運動、水保子工場の乱入事件等、備後では福山天明一揆があり、これ等の事件で民衆は一致団結して時の政府を脅かした。

さて、農民、民衆は、元々保守的な傾向がある。又ずるいと行われる。ずるくなくしては生きては行けぬ状況にあつた訳だが、この為一揆に連帯したくない性格があつた。しかし農民達は、お互い水経済的にも、社会的にも弱い存在であるがゆえに、伊勢講、金刀比羅講等

発行  
備陽史  
探訪の会

『福』天明一揆から  
二百年。見直して  
みよう。の号

発行所  
福山市西原津町  
7丁目2番7号  
神谷和孝

等の講や、親戚、村人集まるとの娯楽、宗教活動等で一帯となり、共同体を作った。これが一揆を荷う原動力となるのである。

一個の共同体である村には、村ごとに指導者がいた。彼等は一揆の際には罪にかかると死ぬ事を怖れなかつた。参加の意思がありながら躊躇する農民達は彼等の存在があつて初めて安心して参加できた。首謀者は処罰され、も無理やり参加させられた(事實は別として)農民達は罪を免れるからであつた。

民衆がその生きた時代を語る時、一つの事実を二通りに語る。その心の奥には、自分かできなかつた事への悔恨がある。そこから伝承が生まれるのである。だから伝承をその儘真実として受け入れるのは危険である。しかしその伝承の言わんとする事を見極めるなら、その時代の民衆の心情が理解できるのである。

福山藩の天明一揆については、未だ明らかでない部分が多い。農民達が立ち上がった時、世話をしたのは誰か。処罰をされたのは、又越前をしたのは誰であつたか。一揆の責任を取つて、遠藤弁蔵が切腹をしたが、本当はもと悪人物がいたのではないか。夜美を黄った庄屋、処罰された庄屋は誰々であつたか、等々。

これ等の事を、残された古文書、今に伝わる伝承等から解明する事は今後の課題である。

備後福山天明大一揆

後藤匡史

天明年間(一七八一～一七八八)の天明三年(一七八三年)から天明七年(一七八七)

には全国的に大飢饉で、各地で百姓一揆が起きた。中でも備後福山の一揆は大変大がかりであった。藩の酷政に耐えかねた民衆は、沼隈郡、芦品郡、品治郡を中心に、福山全藩にわたって騒動が起こり、三十ヶ条の訴状を藩に提出したを受け入れられず、翌七年、藩の回答を不満として民衆数万人が神辺に集まり代表が備前藩に越訴して、ついに福山藩は折れ、訴えは聞き入れられた。

ちなみにこの時福山藩主は、阿部の家の三代、伊予守正右で、彼は幕府の要職である老中を、明和二年(1786)から天明六年(1786)まで勤めた。又次の四代伊予守正倫も、天明七年より同年まで同じく老中職となっている。このようにこの時期の福山藩は、老中を二人も出した為の出費が激しかった。又福山藩は、元和五年(1699)の

水野勝成の入封以来、沖への干拓を続け、水野家五代80年の間に、十萬石の石高は実質十五萬石に増えていた。しかし元禄に水野家が改易され、松平家が入部する際、の検地により、実質十萬石に領地を削減されており、藩の財源は豊かとは言えなかつた。これ等の事情により、当時藩の台所は火の車であり、それが苛酷な榨取を生み、天明一揆の引き鉄となつたのである。

歴史の鞭部

一 歴民研への招待 一 栗田東国

何か心を震わすようなことに出会わないものかといつも思っている。私の歴史への関心は常にこの様な「色気」とつるんで現われてくるのだ。だから私は一揆の研究に

1983年12月1日

(4) 備陽史探訪

などまるで係るつもりはなかつた。以前に私が読んだこの種の歴史書の内では「現代の常識」を超えるものが無かつたからだ。しかし今私は思い当つた。つまりない本のみがつまりないのだという当り前のことに。民衆史は歴史の間である。それは資料的にさうだというばかりでなく、生半可な常識の光では何も照らし出すことが出来ないという意味において圧倒的に間であるのだ。

この部会は「福山藩天明一揆二百年記念行事実行委員会」という長たらし名前前の会の呼びかけに応じて、本当会の独自性を打ち出すために作られたものである。現在私が認めうるこの種の研究の態度は二つだけだ。一つは河原の石を積みか如き古資料の発掘、収集と、いまひとつは、たずら原理をのみこれらの事象の内

らすくい上げることである。当該会は主に後者を謹ぶことにしようと思う。なぜかつと私は古文書を読めないから。

当面は月一回の学習会を軸として活動していくつもりである。特に天明一揆のみに限定するものでなく、一揆という異常空間に凝縮して発現する民衆の憤怒や歓喜は彼等日常の生活空間の背後に必ず見透かせるはずであるという考えから中世・近世にいたる民衆の信仰や祭祠、共同体に係る意識のあり方、さらにはこの時代時として歴史の水面上に跋扈し時代に不思議な色調をそえてまた沈潜する謎の漂泊集団等にも照射を当て何かしら「解明済」の印象のある中近世をさらにさらに解さないものにするのがねらいである。熱きば、よくするところと柔軟な脳髓を有するものよ。来たりて問之、そして書べ。

前記の文章を書いたあと、11月17日に発足準備会が7名の参加を得て開かれ次のことが確認された。

- (1) 名称を歴史民俗研究部会とする。
- (2) 中世・近世にわたる民衆のものとの考之方の変遷を一揆等を軸として探る。
- (3) テキストに勝俣鏡夫『一揆』(岩波新書)を使う。
- (4) 部長は中世史の素人のため各人テキストには事前に眼を通し、部長が余りしゃべらなくてもよい様にする。
- (5) 学習会は月一回。第一回は12月7日(水)夜7時からとし、二回以降は各月第三水曜日とする。場所は青年の家2F和室とする。

※くわしくは 栗田までTEL 2416503

投書

談話会を何度が拝聴させて頂いたが、講師の先生が一方的に喋るだけで、何処に談話があるのかと思えます。これは講演会という調に改名されたらいいかがでしょうか。談話会を称するならば、講演の終了した後、有志一同で円卓を囲み、その内容について意見を交換する、といった場を設ければよいと考えます。今の申し訳程度の質問時間では、落着いて聞く事ができないし、談話会の名にも値しません。

けれども毎月色々な先生方から様々の時代の話を聴けて、貴会に感謝してあります。これから更張って下さい。



例会について一考

社説子

例会とは、日を決めて定期的に開く会議と辞書にある。本会のそれは「日帰り史跡ツア」となろうか。今年も僅かとなった現在、来年度はもっと広い性格を例会に持たせようか。と提案したい。備陽史探訪の会は、その名の通り、史跡を訪ねて歴史の遺構、遺跡に直接触れる事を活動の柱としてゐる。それ大従い、過去、そして今年もほぼ毎月史跡見学の旅を催して来た。だが今年に入って参加者は増へ50人を下る事はあまりない。これは今年の方針、市民が歴史に親しむ場を提供する。により、市民に戸を開放した結果であり、その意味では喜ばしい事である。しかし反面、会員には多かれ少

なかれ負担がかかり、又例会の企画内容も市民レベルに合はせた物が多くなりつつある。一程の歴史知識を持ち、娯楽より勉強を、例会にほめてゐるような会員には、現在の例会は満足に行く物ではないだろう。市民に目を向けて、会員を犠牲にする現在の例会では、将来市民への貢献は大きくとも、中核会員の減少といつた事態を招きはしないか。会費あつての備探の会なのである。そこで市民対象の、今のタイプの例会は、二月に一度程に減らしたらいかがだろうか。そして残りの月を、会費を対象とした例会を開く。座談会、研究の発表、映画上映、展示会の見学会、会議等多彩な内容で、会員の交流、知識欲の充足等をはかる。そんな事を思いました。

わが町 日本鋼管ととも種本実

はじめに 福山市勢の二二十年  
 間の拡大は例えば下図に示すよう  
 になに著しいものがあつたのか  
 な要因として日本鋼管福山製鉄所  
 (以下鋼管と略)の進出によること  
 が非常に大きいことは市民の誰し  
 もが認めるであろう。このころ  
 の進出は、昭和五年(1930)に新領  
 となつた水野勝成公以来の干拓工  
 と新生活の町づくりに行なわれ、  
 民生生活に大きな影響を及ぼした。  
 稿では鋼管の進出により、新しく  
 生れた町や大きく変つた町の歴史  
 を、して変りゆく町と共に生きて  
 人々の生活の推移に焦点を当て、  
 歴史の中に人生を見ようという持  
 を展開したい。

鋼管町 といのう地名が登録された  
 鋼管町・引野町の

福山市勢の推移

|      | 昭和36年     | 昭和56年      |
|------|-----------|------------|
| 人口   | 14万600人   | 34万8300人   |
| 世帯数  | 3万2100戸   | 10万6200戸   |
| 当初予算 | 18億9800万円 | 114億2800万円 |

り、日本エクスランド、大昭和製紙な  
 ど、の企業誘地の夢を追い続け、結局  
 鋼管の誘地協定を結んだのが36年  
 10月である。この協定は当時の池田  
 首相の仲介で結ばれ、内容は、県が  
 730万坪(約220坪)の埋立て地を造成し、鋼  
 管に坪約500坪で渡す(実際は550坪となる)  
 他、航路や工業用水の整備等が条件  
 となり、県や市によって多額の支出  
 と、なつた。それまでのあらゆる工  
 事、の埋立工事は水野組(現五  
 約140億円の埋立工事は水野組(現五  
 昭和四十年八月二  
 の十六日である。鋼管の敷地は、  
 名通鋼管の敷地は、  
 名の通り、  
 の誘地から今日に至るま  
 での歴史を述べてみる。ま  
 の福山市では32年にでき  
 た工場設置奨励条例によ  
 り工業都市への脱皮を図

(8) 備陽史探訪

1983年12月1日

洋建設により37年3月から40年に  
 かけて行なわれた。まず、引野沖  
 600mと手城町天当山を結ぶ、深さ  
 5m、幅20m延長2.2kmの海底の泥  
 土を掘り起し、ジャリと置きかえ、  
 松材で仮護岸を作る作業が始まった。  
 海底はシルト(ヘドロ)で掘り易い反  
 面、後の工場建設にはまるで、おし  
 るこの上に建設する様な状態であ  
 り、軟弱な地盤は大きな障害とな  
 った。この障害も後に土木学会賞に輝  
 いた技術力で克服し、工場の建設  
 が進み、40年5月には製品第一号  
 の鋼材を満載した30台のトラック  
 が東洋工業へ向けた。高炉の火入  
 りは、第一高炉が41年8月、以後  
 44、46、48年に、5高炉へと続  
 いた。そして50年3月には年間粗  
 鋼生産1350万tを達成する大製鉄所と  
 なった。現在は、年間粗鋼生産量は  
 650万tあり、年間粗鋼生産量は

700万tである。  
 40年までに行った埋立て工事は、  
 一日5000m<sup>3</sup>の土砂をくみ出すポン  
 プ船11隻、一隻で一日1000m<sup>3</sup>の  
 船団76隻、島や海浜からの石船  
 起すポンプストマン式しゅんせつ  
 船76隻、砂船3万隻、ダンプ延べ  
 2万隻、海底の土砂5500万m<sup>3</sup>、  
 万m<sup>3</sup>、砂400万m<sup>3</sup>、山土200万m<sup>3</sup>  
 鋼管の建設により漁場を失った地  
 元の人々の生活の変化で、工事に携  
 った人々については次回から述べる  
 ことにする。

引用資料

朝日新聞 57年4月9日

(備後きょう、あす日本鋼管)

中国新聞 37、40年(鋼管関係の記事)

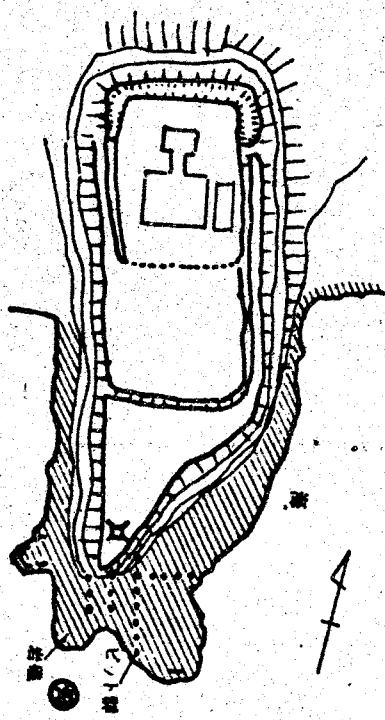
NKKふくやま 55年3月6日

(十五年のたれをたごころ)



一日探訪コース  
水軍城を訪ねて 七森翁く

尾道駅よりバスに乗ると、中庄  
に因島資料館がある。市役所の右  
手の孤島が電島城という村上氏の  
居城がある。弥生より東回りの今  
を城に乗ると、岩城港の東の小山  
の龜山城。その東に岩城古城と云



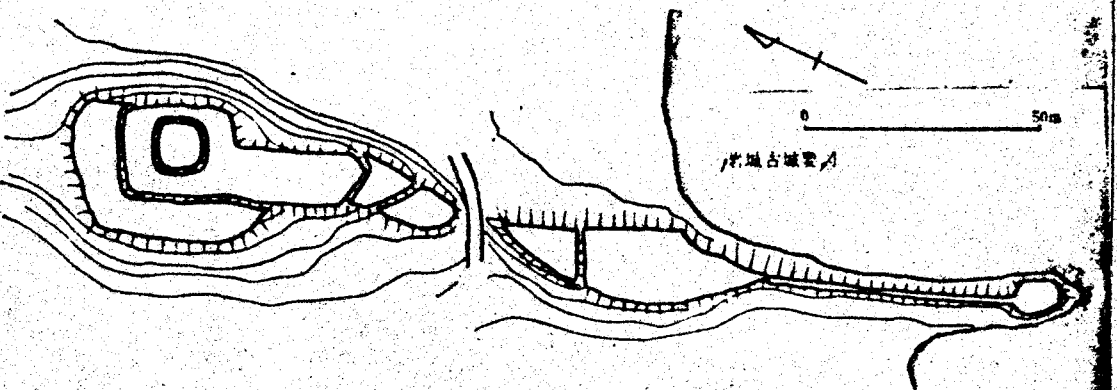
龜山城要図

イオ 古代に築られた城と伝承さ  
る。境内にあり、明徳三年(1392)に村  
上修理亮敬吉が築いたと云われる

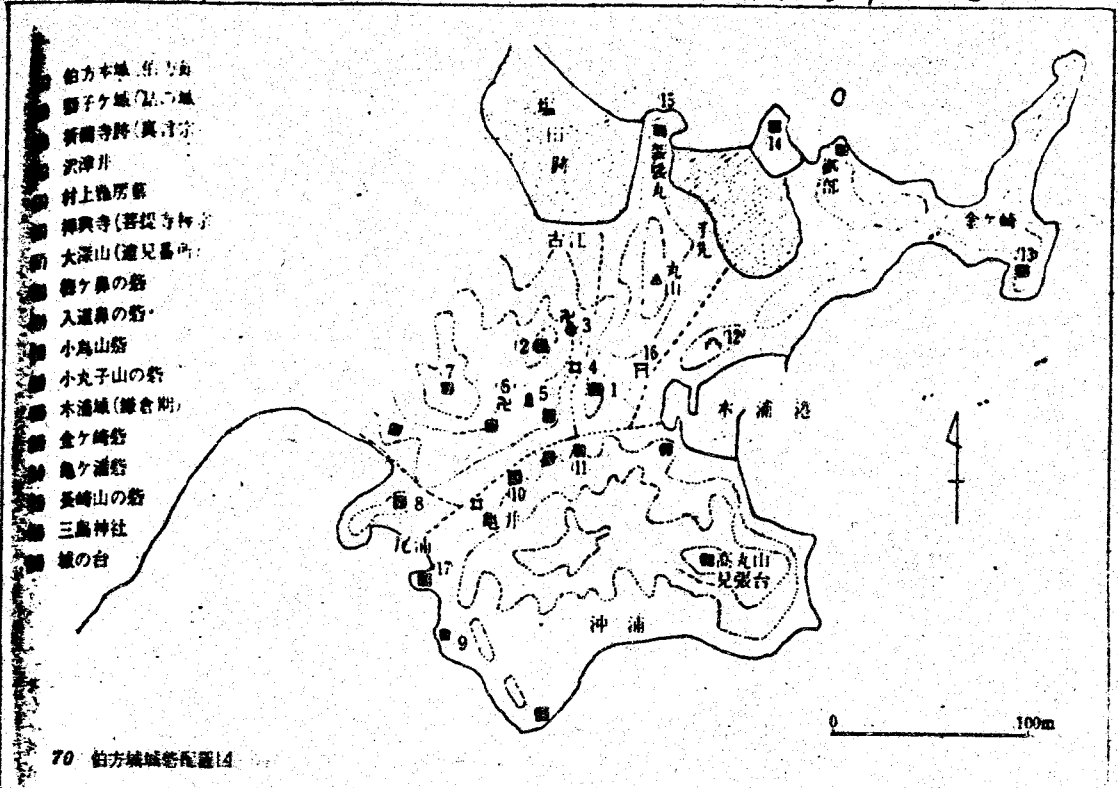
木ノ浦港へ着く  
と、そのあたりに

帯はすへて伯耆城  
があり、明徳元年  
(1390)頃に村上貞有が  
築いたと云われる  
川は丸山の南方  
丘陵先端にある。  
1170年に河野氏の部将の  
紀氏が築いたとさ  
れていいる。又、此  
は弥生時代後期  
の高地性集落跡と  
され、その南  
につくと、その南  
の海上に丸城  
がある。友浦の山  
麓の築師堂に宝  
篋印塔がある。そ  
こよりバスにて宮

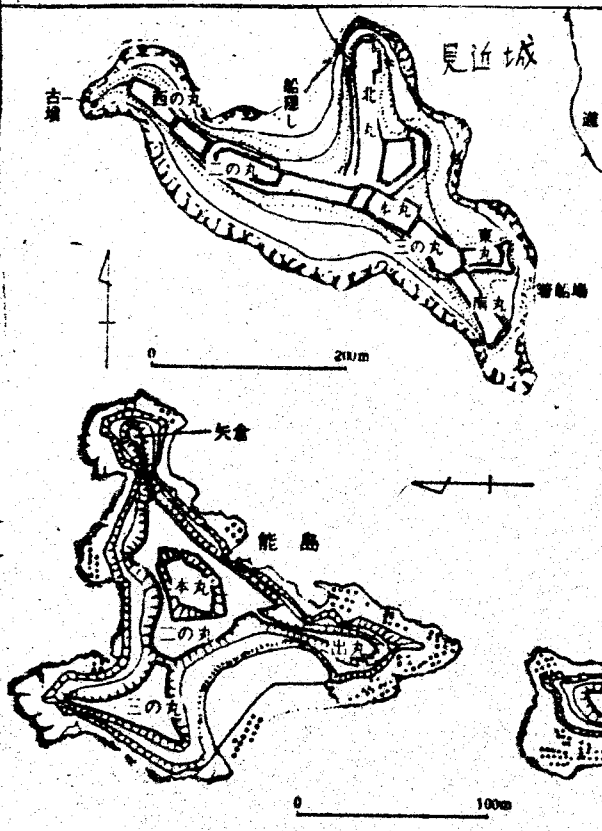
こよりバスにて宮



岩島古城要図



70 伯方城城跡配置図



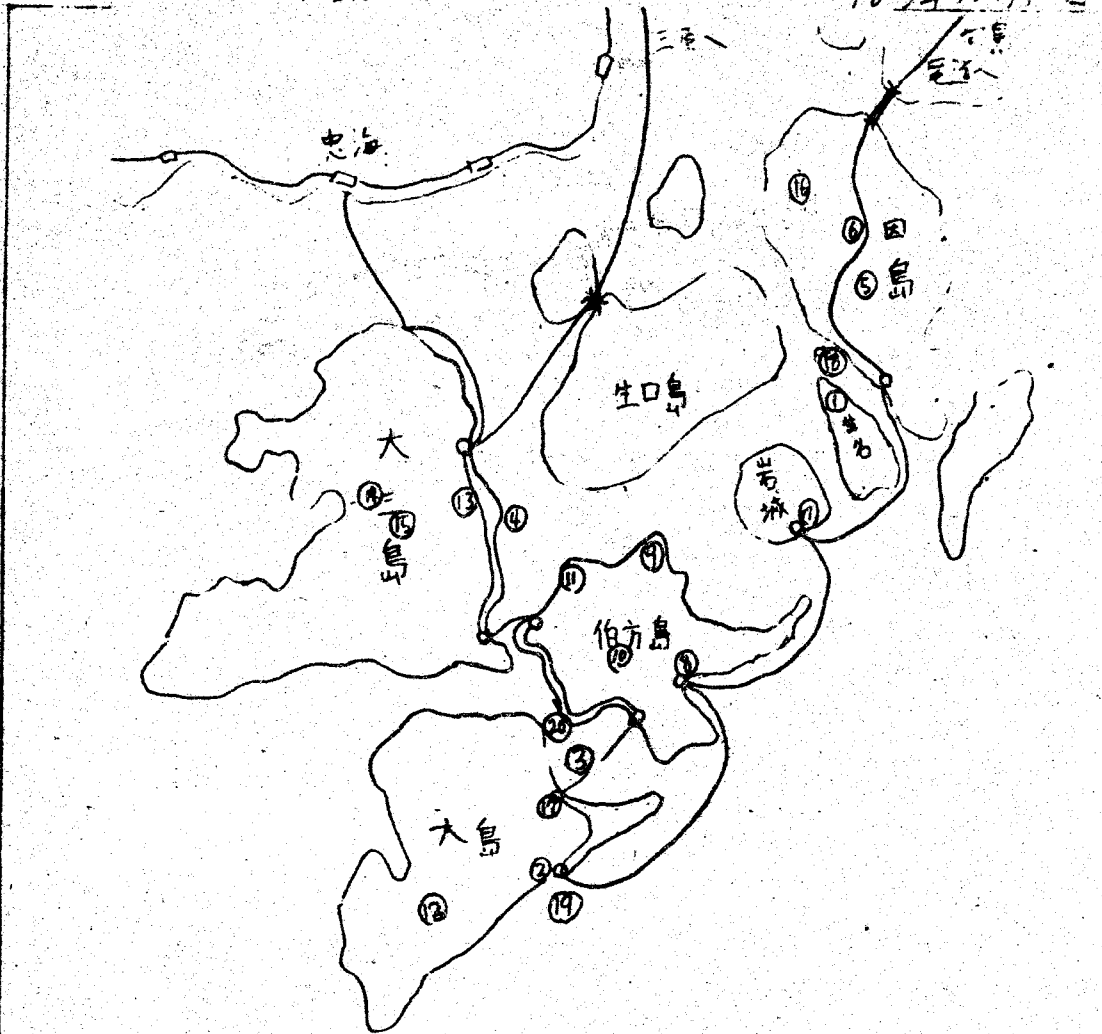
65 能島城跡図(鶴久義経墓氏原図)

窪へ行き、中央公民館に村上資料室  
 がある。宍澤がら船にて尾浦へ行く  
 途中に、左手に能島城が見える。た  
 永二十六年(1419)に村上雅房が築いたと  
 されていいる。尾浦よりハスにて熊口  
 へ行く途中に、左手に見近城が見え  
 る。本丸は迷電塔  
 が立って形が崩れ  
 ている。熊口より



(12) 備陽史探訪

1983年12月1日



- ◎ ① 立石山
- ◎ ② 室箇印塔
- ◎ ③ 能島城
- ◎ ④ 甘崎城
- ◎ ⑤ 青影城
- ◎ ⑥ 因島資料館
- ◎ ⑦ 龜山城
- ◎ ⑧ 木浦城(伯方城)
- ◎ ⑨ 太夫原生城
- ◎ ⑩ 室股山
- ◎ ⑪ 開山
- ◎ ⑫ 八幡山
- ◎ ⑬ 上浦町歴史民俗資料館

- ◎ ⑭ 大山積神社
- ◎ ⑮ 安神山
- ◎ ⑯ 白滝山
- ◎ ⑰ 宮窪町中央公民館
- ◎ ⑱ 龜島城
- ◎ ⑲ 九十九城
- ◎ ⑳ 見込城

◎ 正に立寄るべき史跡  
 ◎ 時間があれば、  
 味内(舟内)が望んでよい

1983年12月1日

(13) 備陽史探訪

私の好きな史跡

山口哲品

私の好きな史跡を書いて欲しい。私の好きな史跡を、見識の貧弱さで、この事であるが、見識の貧弱さで、ゆえに未だ足が宙に浮かんで、ゆえに場所には出会う事がない。それでも強いて言うならば、加茂町の吹越古墳群と石鎚古墳群との間に、ある菱原池(通称パンツ池)周辺に、私の好きな場所といえる。私の場合、好きな史跡といふのが二種類ある。そのひとつは、史の上の人物が、この場所を考へ、何を悩んだの道を通うか、あるは、何を悩んだの道を通うか、あるであろうか。この思いをはせる所で、あり、史の上の人物を考へ、上で、の史跡である。どういう気持ちで、この場所に立って、いたのであろうか。

か、この場所に立って、今の私と同じ夕陽を見たのであろうか。なと夢想するのは、たのしい事である。いまひとつは、風景と史跡の調和である。心のやすらぐ景色と史跡と、何のこだわりもなく、見事に、静かに調和を保っている場所である。ながめていて、心が無風状態で、安んじている場所である。これが加茂町の菱原池周辺である。ここは、朝が、い、しかも晩秋の頃が、一番いい。池の堤に車を止め、吹越古墳を見て、何とも言えなくなる。言葉というものが、次第に意味を失ってゆく。静かに水鳥が、一条の筋を引きながら、松の影を落とす水面を通るのが見える。秋の、高い空の下で、スキがうなだれ、風に揺れている。石地蔵がある。迂堂もある。我が旧友は、冬の夜、受かかれば、君に、おもう。など、この散策し、寒月

漢詩を作った所である。私は私でもここに飯屋でもない。なんでもして、朝な夕なこの景色を肴に菊正宗を飲み、この風景に浸る。なとという愚考をめぐらす事もある。しかし、これは「史」ではなくて文学の領域かも知れぬ。まあ、そんな事はどうでもいい。私は私なりに好きな史跡を書いたまでである。『史』とは、史跡とは私にとっては「私」という人間への愛着である。『史』を学ぶという事は人間の人生と私の生き方とのかがわりである。そう思えば思うほど菱原池の風景に、より愛着が持てるのである。

まだまだいい場所は沢山在るであらうが、今の私には一番いい場所の様に思える。

十二月例会

吉備路風土器の丘 古墳めぐりの案内

古墳研究部会は、七月から毎月二回「才二・四水曜」学習会を行なっている。弥生時代から古墳前期までの歴史の流れを学んできました。今までの成果を古墳に即して学びなおし、これから学習の糧とするため次の計画で古墳めぐりを実施しますのてふるって参加して下さい。

十二月十一日(日)

・とき

岡山県総社市

・ところ

岡山市と吉備風土記の丘

・集合

福山駅北口

・会費

ホテルキヤッスル前 八時厳守

・申し込み

会員 二千七百円

・申し込み

非会員 三千円

・申し込み

十日迄に電話か なるべく

で会長まで、当日の申し込みはできません。

・注

当日はバスを利用しますの  
で定員で申し込みを締切り  
ます。弁当持参で山歩きで  
きる服装で参加して下さい  
(町名変更による会長の新住所は「ページ参照」)

・日程

福山(8:15) — 国道313号 — 黒宮大塚(車中) — 伊予部遺跡(車中) — 宮山墳墓群(車中) —  
作山古墳(11:00 ~ 11:30) — 角力取山古墳(車中) — 備中国分寺跡(11:40 ~ 13:20) 昼食 —  
こうもり塚(13:30 ~ 13:50) — 郷土館(14:00 ~ 14:30) — 備中国分尼寺跡(14:50) — 造山古墳(15:00 ~ 15:30) —  
千足古墳(15:40 ~ 16:00) — 宿寺山古墳(車中) — 福山(18:00)

・説明

古墳研究部会  
三世紀から八世紀まで、吉備中  
松の文化を遺跡に即して見学しま  
す。吉備を再度認識し芦田川流域  
の古墳時代をくらえなおしましよ

・お願い

月一回の貴重な例会です。有  
意義に行う為に係の指示に従う  
事を基本的に次の事に留意して下  
さい。

- ※ 出発から解散までバスの乗降車  
は時間を守りスムーズに!
- ※ 係の説明中は私語は厳禁!
- ※ ゴミはすべて持ち帰る事!
- ※ 遺跡の保護・事故防止に一人一  
人気をつけましょう。

知性の輝き

真実の光

覆面潜入 突撃ルポ

神谷会長が①の面白すまざる場合、②の傷つき易である。齋しと呼んで直ぐに「ネリウ部屋」と  
 が理由に扱ってゐる。書かれる本人である。会長自身はこの部屋を「書  
 ル」が失敗する場合は次の二つの会長は外で不愉快なことがあつたり  
 打撃そのままである。想うに私のこの会長は外で不愉快なことがあつたり  
 か「ない」ところなど。今年のカップのこの会長は外で不愉快なことがあつたり  
 し「かし」単発も「ト」は出ても後が続の空間なのだ。カスロカマーチ型をし  
 当人を除いては概ね好評であつた。入れと呼ぶのは一寸広く二畳ばかり  
 な「のよぬ」前回のルカは書かれた屋があるのに気がついた。それは押  
 やう大上段な求めつけ方、て好きがるが、ある日私はそこに不思議な部  
 る「う」な「い」が「それ」は「笑」い「し」の本質。特筆に値することであらう。  
 此「も」あるものかと思われ「る」かもし「な」一面も持つ「る」人たというこは  
 調「も」あるものかと思われ「る」かもし「な」一面も持つ「る」人たというこは  
 い「こ」んな「雑」文書「く」の「好」調「も」不「な」一「面」も「持」つ「る」人「た」とい「う」こ「は」  
 いた「の」ど「あ」る「う」か。明日「が」メ「切」り「と」う「だ」と一「人」で「照」奮「し」て「み」て「も」馬鹿「み」  
 いた「の」ど「あ」る「う」か。明日「が」メ「切」り「と」う「だ」と一「人」で「照」奮「し」て「み」て「も」馬鹿「み」  
 いた「の」ど「あ」る「う」か。明日「が」メ「切」り「と」う「だ」と一「人」で「照」奮「し」て「み」て「も」馬鹿「み」



命名されてしまった。民俗学的に言うなら、こぶゆう狭い空間に籠ることは「母体回歸」と呼ぶのであつて、人はこの空間へ出入りすることによつて死滅・再生を象徴的に体现するのである。(勉強になるぞしよう?) この時私は「どんなに腹が立つても一晩たてばコロツと忘れる」という会長の言葉も最も深いところで納得でき、合わせで最近とみに会務に忙殺されるようになつた会長の御立場をも考へさせられたのであつた。

どうも余りにも暗い話になつてしまつたので明るい話題でしめることにしよう。となれば当然プロレスの話である。会長のプロレス好きは有名である。会長の言を借りるなら「暗く貧しい苦学生時代(本当にそうだったのかどうか知らないが)会長はこぶゆう表現か

やたらに好きなのだ」にカ道山の勇姿をTVで見ることだけが心のやささかであつたというから相当古い。しかし最近のプロレス界はカ道山時代のかき単純な図式では理解不能になつてゐる。会長もこの頃やつと理論学習の必要性に気付かれたか私に本を貸してくれといわれたので早速数ある蔵書の内から井上義啓著「オプザリング」全三冊を貸してあげた。

「かり学習されたら、考えてみればまたまた書かねばならぬことは多い。例えは神谷邸のある西深津は周辺の店といえはパニ屋

〈神谷氏の青春〉



昔のテレビは 電気で点して見る

一軒位しかないさみしい所である  
 のに 何故福山中にそんな多く  
 もないポルノショップが店を開い  
 ておるのかということについても  
 必要と供給の経済原則からい  
 もつと突っこんだ考察を加えるべ  
 きであつたが残念なことに頁が足  
 りなくなつてしまつた。次回会誌  
 をとりあげることがあつたらうの課  
 題としたい。



◎ 出版情報 ◎

〈 神辺郷土史研究会 〉

- 神辺の古刹寺院 八百円
- 北条菫亭とその交友 千円
- 近世神辺宿の町並 千円
- 神辺城をめぐる武将たち 千三百円



運送費別  
 千四百円  
 送料  
 千五百円  
 送料  
 千六百円

〈 福山電報電話局郷土史会 〉

- 備後風土記 五百円

〈 神辺町教育委員会 〉

- 御領遺跡 I 五百円
- 御領遺跡 II 五百円
- 中谷庵寺 千円

(この棟は単なる情報であつて、こ  
 れらの出版物を当会で取扱かつて  
 いる訳ではありません。念のため)

12月行事予定

12月4日(日)

◎ 13回歴史談話会

- テーマ 阿部正弘とその時代
- 講師 福山史博物館学芸員

鐘尾光世氏

|   |        |     |   |
|---|--------|-----|---|
| ◎ | 12月10日 | 14日 | 古墳講座  |
| ◎ | 12月11日 | (日) | ◎ 12月例会<br>。テーマ 『古代吉備国を探る』<br>※詳しくは『吉備凡士記の丘古墳めぐりの案内』をお読み下さい。                |
| ◎ | 12月7日  | (水) | ◎ 1 回歴代研究学会<br>。場所 東上福山青年の家<br>。時間 2下和室<br>午後7時～8時半<br>※詳しくは『歴史の鞍部』をお読み下さい。 |

◎ 忘年会  
12月18日(日)  
。テーマ 『後期古墳NO1』  
。講師 部会長 佐藤一夫氏  
。場所 青年の家 2下和室  
。時間 午後7時～8時半

◎ 忘年会  
。御案内いたします  
。御案内いたします

告知板

城郭研究会  
部会員募集

古代中世の「城郭」と鎌倉より戦国時代までの芸備地方の歴史に興味のある方、お集まり下さい。部会長の交代(雨田→田口)にもなない、気分一新、何かやろうと思っております。とりあえず来年は『備後中世史講座(日一回)』を予定しております。入部希望者は左記迄御連絡下さい。

福山市多治米町九一六

田口義之

TEL 0849(53)6157

評議会報告

10月23日「決心」にて

◎来年9月までの例会担当決まる

12月(古墳研究部会)、昭和59年  
1月(高橋安子)、2月(城郭研究  
部会)、3月(佐藤洋一)、4月(立  
石雪夫)、5月(古墳研究部会)、6  
月(武島種一)、7月(神谷和孝)、  
9月(宮宗正人)

◎新年度会費決まる

新年度より年回会費



を2500円にさせて  
いただきます。言訳は

いたしません。来年も多彩な活動

を予定しておりますのでいつもも参

加していただくとお得です。(何か商  
売人みたいだね)それではヨロシク!

編集後記

▼11月5日、色川先生の講演  
は、400人入りの会場を埋め  
つくす程の盛況であった様であ  
る。土曜日の昼からという非常  
に「反民衆的」な時間帯であり  
私に行くことが出来なかつたが、講  
演を聞いてきた人達はかなり感動し  
たものの様であった。それと今回の  
会報には巻頭に講演会の印象記の様  
なものも載せたのだが、果してこの  
感動は上手く伝わり、たてありまし  
うか。

▼この講演会は「福山藩天明一揆二  
百年記念事業実行委員会」(あまりに  
も長いので正確かどうか自信がな  
い)は一応理事さんだけ(どね)の初任  
事として行なわれた。この会は備南  
地区のサークル連合であり、代表  
当会会長神谷和孝氏が若干の念  
もって選出されたことを、この  
伝へておく。

(東)